

成果報告書（会津若松市協働参画の会）

会津若松市協働参画の会代表
遠藤 はるえ

1. 主題：第11回福島県男女共生のつどい
テーマ「震災・原発事故と私たちの暮らし」
～男女がともにすすめる復興への道のり～
2. 主催：福島県男女共生のつどい実行委員会、福島県女性団体連絡協議会
3. 会場：福島県文化センター
4. 日時：平成25年1月20日（日）
5. 参加者：（4名）

6. 内容

第11回「福島県男女共生のつどい」プログラム

オープニング、独唱 吉村耕一さん（テノール歌手）

開会のことば 実行委員会副委員長 大川原けい子

主催者あいさつ 実行委員会委員長 青木千代美

来賓祝辞 福島県知事 佐藤雄平 代理副知事

来賓紹介 福島県教育長 杉昭重 代理

福島男女共生センター館長 千葉悦子 代理

講演（11：00～12：15）

「ジャーナリストが見る、震災後の福島、社会的弱者の視点で見た現状と課題」

講師 藍原寛子（元福島民友新聞記者）

写真を混えたパネルで発表されたため、とても分かりやすく2011年3月からの経緯を学ぶことが出来た。

障害者施設から避難してきたが、集団施設に入れる訳にもいかず民家を借りての避難となったため、物資が全然手に入らずその関係者の一人が喫茶店でボヤいていたことが藍原氏の耳に入り、集団で入っている所で物資を分けては貰えず、別の所から物資を分けて戴き自分の車で届けたと。

その時は、新聞記者でなく自由のきく身だったので良かったと言われた。

シンポジウム（13：00～14：50）

「男女がともにすすめる復興への道のり」

コーディネーター 山口哲子（福島県女性国際連絡協議会副会長）

パネリスト 猪狩レイ子（財団法人福島県婦人団体連絡評議員）
長田信夫（JA福島県青年連盟委員長）
西之幸子（福島県生活協同組合連合会理事）
石田登喜子（一般社団法人 福島県助産師会会長）

このシンポジウムでは山口哲子氏の話と、石田登喜子氏の話が心に残った。

山口氏は2回避難し、2回目はいわきに民家を借り住みついた。又、近くに小屋を建て畑を作る土地を借り、作物を作りその作物を利用して加工品等にし、周囲の方達も巻き込み現金収入を得ていることを知った。

石田氏は

- ・母親が慣れない育児や授乳に対する戸惑いの他に避難生活や放射能による不安やストレスが加わり、心身の疲労が大きく母乳にも影響された。又、特に家族間での考え方の違いが不安やストレスを大きくしていた。
 - ・母親は退院直後の不安、特に授乳に関する不安や戸惑いが多く、又、授乳期間のトラブルも多い。
 - ・外出が出来なく母子で長期間自宅に籠もっていることが多い。
- <母乳の不安やストレスは、子供の泣き声として現れる>
- ・母乳を子へ含ませる場所がないと言われ、プライバシーを守る場所を設けた。
 - ・パートナーや家族の理解と十分な支援が必要。又、母親を家族のニーズに応じた支援体制が必要。

大会宣言採択（14：50～15：00）

みんなで歌おう「花は咲く」

閉会のことば 実行委員会事務局長 池田芳江

幕を閉じた。

1月23日（水）会津若松市協働参画の会を実施し、第11回福島県男女共生のつどいを報告する。
平成23年の男女共生センター（二本松市）と震災の報告。国立女性教育会館における郡山市の震災での、対応等々全部関連性があり、とても良く理解できた。又、ある講義で若者が集団生活の中で性生活を隠そうとせず、なされていたとの報告があり、とても嘆かわしく感じたと言われた。人間の欲求には、性欲もあるので仕方がないと思うが羞恥心も大切だと思う。

「第11回福島県男女共生のつどい」参加研修事業

収支決算書

収入の部				(円)
項目	予算額	決算額	比較	備考
自己負担金	6,800	6,800	0	
会津若松市補助金	6,800	6,800	0	
合計	13,600	13,600	0	

支出の部				(円)
項目	予算額	決算額	比較	備考
高速バス代	11,200	11,200	0	@2,800*4
市内路線バス代	800	800	0	@200*4
参加費	1,600	1,600	0	@400*4
合計	13,600	13,600	0	

収支差額	0
------	---